

大阪総合デザイン専門学校

学校関係者評価報告書

(平成28年度)

実施日＝平成28年7月22日

学校法人上田学園

大阪総合デザイン専門学校

学校法人上田学園 大阪総合デザイン専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年6月から毎年6月に本学園のホームページ上に公表いたしました。

また、平成25年度より、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施いたしております。学校関係者評価委員会では、第三者の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年9月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
大阪総合デザイン専門学校 校長 越田英喜

1. 「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「平成27年度学校自己評価報告書」に基づき、本校と関係の深い3名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

各評価委員には、事前に「平成27年度学校自己評価報告書」等の学校評価に関連する資料を配布した上で、学校関係者評価委員会でご意見を頂戴しました。

評価委員からのご意見は、校長が承り、その内容等について要約の上、報告書として取り纏めました。

平成27年度学校自己評価報告書と併せてご覧いただければと存じます。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員	当校との関係属性等	備考
井村 良裕	オフィス・トライアド井村アトリエ 代表 同窓会長・評議員のお立場でのご参画。 毎年、卒業制作の中から同窓会会長賞を選出頂いております。	委員長
鵜飼 隆	(有)タイトルアート 代表取締役 卒業生を継続的に多数ご採用頂いております企業様の代表としてご参画。	
杉本 清	元大阪府職員 長年にわたり、地域のデザイン振興に寄与されて来られた業界の専門家としてのご参画。	

3. 学校関係者評価委員会 次第（平成28年7月22日開催）

1. 校長挨拶

2. 委員長の選出

評価委員全員のご了承を頂き、同窓会長で評議員でもある井村良裕氏を委員長に選出。

3. 「学校自己評価報告書」に基づき、下記 4 点を判断基準に、経営刷新委員会、国際情報推進室の活動報告及び前年度の同委員会で頂いたご意見を元に改善を図った点等、適宜補足説明を加えた上で、評価委員より意見及び助言を聴取し、検討。

- 判断基準
1. 自己評価の結果の内容が適切か否か
 2. 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か否か
 3. 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切か否か
 4. 学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切か否か

5. 校長よりお礼の言葉

大項目別 学校関係者評価結果 意見・助言

No	大項目	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
1	教育理念 目的 人材 育成像	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 	4 (3.5) 3 2 1
		意見 助言	おおむね適切と考える。あえていえば、評価項目の4項目については、もう少し、学生・保護者に対して情報提供の機会を増やしたほうが、親近感や愛着が高められると思う。
2	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	4 (3.8) 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・経営刷新委員会のもとに、カリキュラム刷新委員会を置き、教員の業績等の評価基準、定年制を設け、人材運用のシステム化を図っている。
3	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 	4 (3.8) 3 2 1
		意見 助言	

3	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか 	
		意見助言	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校は、様々な状況を背負う学生が在学するのが特徴である。学業の途中で迷ったり、脱落しようとする者のフォローに学校としてエネルギーを割いているからこそ、学生及び保護者からの評価が定着しているといえる故、継続的で丁寧な対応が望まれる。 ・基礎力として、画力・テクニカルスキルも必要だが、昨今は人間力の必要性が重視されている。
4	教育成果	<p style="text-align: center;">評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<p style="text-align: right;">適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1</p> <p style="text-align: center;">4 3.8 3 2 1</p>
		意見助言	<ul style="list-style-type: none"> ・離職率が高いと、学生募集に影響を及ぼしかねないため、就職先における卒業生の実態把握とその原因究明が必要。 ・産業構造が変化したことで、雇用状況も変わってきており、2・3年で辞めても良いような循環系になってきている。漫画は産業としての認知がまだまだ低いようだ。 ・ゲーム会社は、業界的に退職率が高く、卒業生の傾向をみても草食系が多く、生き残り競争には弱いように感じる。

5	学生支援	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか 	4 (3.5) 3 2 1
	意見 助言	・新たに夜間研究科を開講し、卒業生のスキルアップ、社会人のニーズに対する対応を図っている。	
6	教育環境	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか 	4 (3.7) 3 2 1
	意見 助言	・最新のデザイン支援ツールは、学生にとっては魅力的であり、ある程度の最新機器の導入は現実的対応として必要だろう。	
7	学生の募集と受け入れ	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか 	4 (3.5) 3 2 1
	意見 助言	・学校案内、HPを見ると適正に募集活動が行われていると思われる。	
8	財務	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計検査が適正に行なわれているか ・財務情報公開の体制整備はできているか 	4 (3.3) 3 2 1
	意見 助言	・将来を見据えた投資と実績評価を行っていて、おおむね適正と考える。	

9	法令等の遵守	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか ・自己評価結果を公開しているか 	④ 3 2 1
	意見助言	・適正に行われていると評価できる。	
10	社会貢献	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域連携を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか 	4 (3.3) 3 2 1
	意見助言	・地域とのかかわりは、直接的なインセンティブが低いと思われるが、引き続きの努力目標だろう。	
11	国際交流	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか 	4 (3.5) 3 2 1
	意見助言	・フランスやベトナムの教育機関との交流に努力している印象を受けた。国際交流はその成果が表れるまで時間が必要で、中長期の活動になるが、時間をかけて達成していくことを望む。	
	今後の学校運営の方向性に対する総合的な助言	<p>各学科の評価数値に差があるのは、評価者(学科長)の基準によるものだろうが、経年的にみると、課題に取り組み、努力をしたことにより評価数値が多少であっても上昇傾向をたどるという形が望ましいと思われる。(井村委員長)</p> <p>若者人口の減少、少子化に加えて大学、専門学校、生涯学習など教育機関の間で競争が激化しており、とりわけ専門学校の領域だった科目に、大学が目指し、新学科の開設を進めている。</p> <p>デザインを取り巻く社会や教育の環境は、急激に変化し、今日デザインの活動やビジネスの潮流にデザイナーとしての作家性や独創性が必ずしも必須にはならないという傾向が顕著になってきている。つまりプロとしてのデザイナーは、これまで以上に、マネジメントやプロデュースの能力が求められる。その対極に、表現と造形処理などのデザイン作業は、デザインプロセスには必須であっても、その職能への経済的対価はかなり低くなってきている。</p>	

早くから中長期ビジョンを構築して、対応策を講じていることを実感するが、専門学校において、どの部分のデザイン教育を担うのか、どのように学生を育成するかが問われている現況を踏まえ、科目、学科の再編や教育環境の改善など、引き続きの対応と改革を進めてもらいたい。(杉本委員)

専門学校間に加え、芸術・美術大学との競合が激化するなかで、勝ち残るにはブランド力を強化することが大事と言われる。本校のブランド力とは何か。上田学園として3校体制を形成し、その一翼を担う本校は、まず学園内での戦略的位置付けの明確化を図ることが自校ブランドの再構築の第1歩になるのではないかと。ネット上に「専門学校なんて、どこも同じ。この専門学校だ」という分野に長けていて、あの専門学校ならこの分野が良いなんてことは思わないし、実際そんなものも無い。唯一違うのは、東京のK校だけ。ここだけが違って、他はみんな同じ。」という言葉があった。学校選びをする学生から本校がK校とともに東西の専門学校の雄として並び称されるようになるには、どうすると良いのか。

小さな会社の経営者として、卒業生を多く雇用する者として、学校評価活動に関り、自らの活動を自己評価することの難しさを共有する。まず、各項目の評価基準を極めて高く再設定し、その達成に向けて教職員間の意識付けを強化し、日常的に評価し合うことが重要だと思う。校長と管理職だけの課題と捉えるのではなく、全教職員、学生も参画して課題に取り組む、方向性を検証しながら実現に向かうことで、一層の成果達成度、評価内容の向上が得られると思う。卒業生の長所を鑑みると、目的を共有し教職員が情熱を注げばもっとパワフルになり、その波動は学外に拡がり、評価を高め、入学生増につながるのではないかと。(鵜飼委員)

* 各委員に項目ごとに4段階評価を受け、総合評価として平均値を記載。

4. 終わりに

校長から各委員に貴重なご意見を頂戴したことに対し、お礼の挨拶を行い、今後の学園・学校運営の改善に活用することをご報告し、閉会となった。

以 上